

平成22年度

東京都市大学女性研究者支援室(SOFERS)活動報告

文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」

SOFERS ANNUAL REPORT 2010

東京都市大学は、私立大学の工学系総合大学として初めて文部科学省の女性研究者支援事業の対象となりました。支援期間は、平成21年度から23年度までの3年間。本学に女性研究者支援の風土が根付く活動を展開していきます。

工学系分野において、女性研究者が活躍し、かつ必要な人材であると、広く認識・評価される機会を増やすと共に、ワークライフバランスを保ちながら仕事をする事ができる基本的な環境整備を活動の柱としていきます。

本事業のミッション・ステートメント

- 1 全学科への女性教員の配置
- 2 女性比率を10.5%→15%へ
工学系女性比率を6.3%→9%へ
- 3 首都圏における工学系私立大学のモデル校として情報発信
- 4 女性研究者・技術者・女子学生の相談体制の整備

10 私立大学学長共同宣言

私立大学は、共通して下記の理念のもとに、男女共同参画を進めていきます。

- 1 私たちは、教育・研究・就労における男女共同参画を実現するために、全学をあげて、教職員・学生などの人的構成の男女格差を是正し、大学運営の意思決定における男女共同参画の実現をめざします。
- 2 私たちは、各大学の教職員・学生等が、出産・育児・介護と教育・研究・就労を両立する事ができる為の効果的で具体的な措置を講じます。
- 3 私たちは、男女共同参画社会における学問・研究が世界をリードし地球的規模で生ずる様々な問題の解決のために大きく寄与するものであり、かつ、男女共同参画の実現が多様な生の生存にも貢献するものであることを自覚しつつ、今後とも、新たな社会の創造に向けた知の結集・国際性豊かで優れた人材の育成をめざします。
- 4 私たちは、学術分野での男女共同参画を強力に推進するために、女性研究者の積極的採用、キャリア形成支援、育児・介護等と研究・教育の両立支援などについて、私立大学としても社会に対する重大な責務と認識し、その実現に向けて真摯に努力します。

2009年12月4日、津田ホールにおいて、女性研究者支援モデル育成事業の採択私立大学合同シンポジウムを開催。本学中村英夫学長をはじめ、10校の私立大学総長・学長が心を合わせて、下記の共同宣言を高らかに宣言しました。

平成22年度 SOFERS 活動計画

初年度にひきつづき、5つのプロジェクトの積極的な推進を行う。

3 科学とともに プロジェクト

今年も科学体験教室などを積極的に開催するとともに、オープンスクールなどにおいて、SOFERS 作成の資料を配布し女子生徒の理工系学部への進学を促す。

1 プラス1 プロジェクト

女性研究者がいない工学系学科に対して、専任講師、非常勤講師や教育講師制度などを活用した女性研究者採用促進に努める。

2 広がれ理工大 プロジェクト

海外で活躍している理工系女性研究者を招聘し、女性研究者のネットワークを海外へも広げていくと共に学内外の意識啓発の機会としていく。また、国内の理工系大学のネットワーク作りを進める。

4 ロールモデル発掘 プロジェクト

国際シンポジウムや女性専門家グループを通じて、国際的なネットワーク作りを進める。本学女子卒業生などからロールモデルを発掘し、多様な人生の選択肢があること示す。

5 基本的な環境整備

本事業を推進していくために必要な支援制度や体制の整備、普及啓発、学内のニーズの掘り起こしなどを進める。

女性教員6名採用

本事業のプラス1プロジェクトの実施や、各学科での女性教員採用気運の高まりもあり、6名の女性教員が工学部、知識工学部で採用されました。この採用により、工学系の女性教員・研究者比率は、目標の9%をクリアし、10.7%となりました。



工学部教育講師
桃沢愛



知識工学部教育講師
西尾繁子



工学部教育講師
矢野史子



知識工学部助教
杉本裕代



知識工学部助手
小寺舞



知識工学部教育講師
杉山幸子

等々力キャンパス教授会にて SOFERS 活動報告会を開催

等々力キャンパス教授会にて SOFERS 活動の報告および計画について報告し、意見交換を行いました。等々力キャンパスは、文系学部の都市生活学部と人間科学部があり、本事業について理解をいただき、別の視点からの意見を受けることにより、活動に一層の深みを持たせることがで

きるのではと考えています。この報告会後は日、等々力キャンパスと SOFERS の国際シンポジウム共催というコラボレーションに結び付けました。

平成22年度女性研究者支援室第1回室員会議を開催

SOFERS の室員として、各キャンパスの事務局、学部代表の立場で、16名の室員が活動しています。年度初めの室員会議を開催し、21年度の活動報告および22年度計画についての検討を行いました。22年度は、

活動をより発展させ、学内にしっかりと定着させるための重要な1年となります。室員の積極的な参画をお願いしました。

5/29

第2回女性研究者紹介セミナーを実施

「伝えたい私の研究の魅力」をテーマにした女性研究者セミナー。第2回目が世田谷キャンパスにて開催されました。今回は、総合研究所の筒井千尋ポスドク研究員による「研究の楽しみ方」と女性研究者支援室長の小川順子准教授による「世界で活躍する原子力分野の女性たち」と題する2件の講演が行なわれました。

筒井研究員は「少しでも興味を持ったことや、気になることがあれば、とことんまでやりきたいというオタク魂でカーボンナノチューブ(CNT)研究をやってきました」と体験を振り返りました。小川准教授は、「巨大技術の専門家と社会の架け橋となる」科学技術のコミュニケーターの仕事について紹介しました。



+ CNTの研究の魅力を話す筒井研究員

10月の国際シンポジウム開催に向け、運営プロジェクトチームのキックオフ

平成22年度の最大行事である10月の国際シンポジウムは、本学で初めての本格的な国際シンポジウムとなります。大学全体の支援のもと、実務担当として、SOFERSと、基調講演者のニュージーランド、カンタベリー大学副学長ゲイル・ギロン教授招聘の窓口である人間科学部が協力して、プロジェクトチームを作ることになりました。そのキックオフミーティングが、等々力キャンパスで行われ、シンポジウムのテーマ、基調講演内容、パネリストなどについて検討されました。

第2回ステップアップセミナー開催

科学技術振興機構(JST)の科学技術振興調整費業務室長塩満典子氏を講師に迎え、「第3期科学技術基本計画に基づく科学技術振興調整費プログラムおよび女性研究者支援策」と題して第2回ステップアップセミナーを開催。本学のみならず、津田塾大学、日本大学、上智大学、東邦大学の関係者が参加しました。

塩満室長の講演では、第3期科学技術基本計画から第4期科学技術基本計画の展望を通して振興調整費の詳しい説明があり、さらに振興調整費への応募及び競争的資金獲得のポイントなど多彩な内容が紹介されました。制度の概要を理解しポイントを押さえることで採択される可能性が高まるので、是非応募していただきたいと話されました。意見交換会ではプログラムオフィサーの臼井直規氏(当時)と山村康子氏(現在)を交え、それぞれの大学の具体例を出しながら熱心な意見交換が交わされました。



+ 講師の塩満 JST 科学技術振興調整費業務室長



+ 会場の様子

6/4

女子学生とWiN-Japan会員との交流会実施

■WiN-Japan は、日本国内で活躍する女性の原子力専門家のグループで、SOFERS が事務局業務を支援しています。WiN-Japan 主催で、本学女子学生を中心に「エネルギー・原子力・放射線」をテーマにした交流会が自由が丘にて行われました。



参加者を前に挨拶に立つ SOFERS の小川室長

当日は、東京大学、東京工業大学、早稲田大学などの女子学生が 20 名集まり、エネルギーや原子力情勢、放射線の講義を熱心に聴講しました。またロールモデルとなる WiN-Japan 会員から原子力業界の話や、キャリアウーマンとして生きることについてをテーマに、少人数のテーブルトークで話を聞きました。

岡田准教授による放射線の講義



7/5-6

日米シンポジウムに出席

(独) 国立女性教育会館にて開催された「女性研究者のエンパワーメントと新領域創生に向けた日米シンポジウム」に出席しました。基調講演は、ハワイ情報システム大学学長のグリーンウッド博士が行いました。博士は、「米国では女性が学士号・博士号の半数を占めるようになり、女性

研究者は増えている。しかしトップレベルの女性は少なく、女性研究者への支援は重要である」と述べました。そして「成功するためにはネットワーク構築が重要であり、今回のシンポジウムで日米間のネットワークを強化するよう希望する」と結ばれました。

7/12

第2回女性研究者支援室会議 開催

平成 21 年度の活動に関する科学技術振興機構の確定調査を無事終了した事が報告されました。広がれ理工系大プロジェクトに関して、東京電機大学と室蘭工業大学で、男女共同参画準備委員会が立ち上がった

ことが紹介されました。また 10 月に計画中の国際シンポジウムの周知および集客をはじめとした協力依頼をしました。

7/15

川崎市立南菅小学校で科学体験教室

川崎市立南菅小学校は、SOFERS プロジェクト担当責任者の岡田准教授が平成 21 年から出前授業を行っている学校です。



今年も依頼があり、岡田准教授はじめ 3 名の講師陣と 20 名の学生が同校を訪れました。3 年から 6 年までの各 2 クラス約 240 名が「エネルギー」に係わる 7 つのテーマの実験に取り組みました。学生にとっても、小学生にわかりやすく教えるという体験は、貴重なものとなりました。



7/22

SOFERS Letter No.2 を発行

6 月 7 月の SOFERS 活動および関連情報を掲載した SOFERS Letter No.2 を発行しました。

オープンキャンパスでSOFERS紹介

オープンキャンパスは、高校生とその保護者が本学を訪れ、進路について考える機会であり、本学にとっても社会への窓を開くという意味で重要な行事です。当日は、1,800名あまりの高校生・保護者の来場があり、

そのうち310名が女生徒でした。SOFERSもポスター出展と活動を紹介したチラシやノベルティの配付を行いました。

■今年も、埼玉県嵐山町の（独）国立女性教育会館にて、全国の女子中高生に対し、理系の魅力をアピールし、女子中高生に理系進学を考えてもらう機会となる女子中高生夏の学校が開催されました。



+ 全体セッションの様子



+ 東京都市大学の出展ポスター



+ 原子力学会実験コーナーで説明する本学卒業生（右から2人目）

女子中高生夏の学校2010に参画

今年の参加者は、中高生が123名、保護者が51名という盛況。SOFERSでは、保護者との懇談会運営やポスターセッションに参加し、娘を理系に進ませることについての悩みを持つ保護者の質問に答えたり、女子中高生向けに、工学系に進んだ場合の可能性や面白さについてアピールしました。

世田谷サービス公社主催による科学体験教室への講師派遣

本学が世田谷区から夏休みの科学体験教室への協力を依頼され、岡田准教授が学生と共に「作って学ぶ! エネルギーの仕組み」をテーマに授業を行いました。およそ30名の子どもたちが手回し発電機でプロペラを回して風船を浮かべる実験を楽しみました。

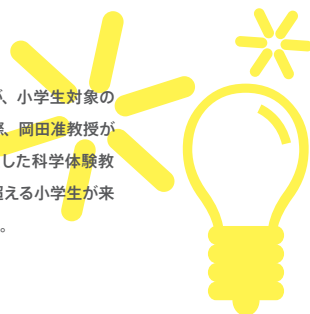


+ 実験に興じる子どもたち



東京都市大学等々力中学校 オープンスクールでの科学体験教室開講

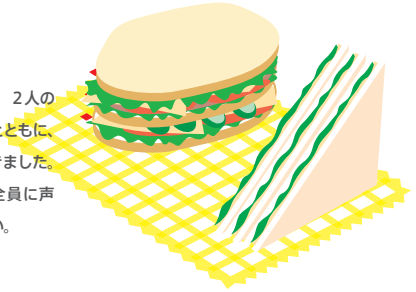
東京都市大学等々力中学校が、小学生対象のオープンスクールを開催した際、岡田准教授が「ひかりの不思議」をテーマとした科学体験教室を提供しました。50名を超える小学生が来場し、大いに盛り上がりました。



SOFERS井戸端ランチで意見交換

井戸端会議は、伝統的な女性ならではの情報交換の手法。SOFERSも井戸端会議の要領で、昼食を持ち寄り、楽しく女性研究者支援について語る場を設けることにしました。名付けて、SOFERS 井戸端ランチ。参加者は、学内の女性ならば教職員、学生を問わず誰でもどうぞ、

と広く窓を開けています。最初の会は、2人の准教授が参加され、SOFERSメンバーとともに、小人数ならではの深い話し合いができました。これからも、開催のときは、教職員全員に声を掛けますので、ぜひ参加してください。



全学教職員討議で国際シンポジウムの広報を行う

全学教職員討議が横浜キャンパスで開催され、SOFERS 小川室長から、女性研究者支援事業への協力要請とともに、10月8日開催予定の「国際シンポジウム」への参加を呼びかけました。

室蘭工業大学との連携・協力の打合せ

本学と、室蘭工業大学は戦略的学術連携支援事業のパートナー校となっている関係から、男女共同参画の面でも意見交換を行い、この面でもお互いに成果を挙げるための協力をするようになりました。SOFERS から小川室長、岡田プロジェクト担当責任者が室蘭工業大学を訪問し、室

工大の伊藤理事・副学長および関係者へ進捗状況説明を行いました。伊藤理事からは、なかなか男女共同参画活動が進まない室工大に対し、情報やアイデアの提供をお願いしたいとの依頼がありました。

わくわくエネルギー学校への協力

経済産業省、産経新聞社主催の「わくわくエネルギー学校 子どもエネルギー探検隊」の東京探検会が開催されました。参加したのは、原子力発電などのエネルギー生産地である新潟県、福島県の小学生と、東京の小学生、いずれも4年から6年生で、合計120名でした。エネルギーを作っている県と使っている県の相互理解のための催しですが、東京都の電力事情を勉強する趣旨で、パナソニック東京センター、六本木ヒルズを見学しました。小川室長が子どもたちの質問に答えるエネルギーアドバイザーとして、協力しました。



子どもエネルギー探検隊の再録新聞広告

国際シンポジウム開催

平成 22 年度の最大行事として開催された国際シンポジウム「男女共同参画社会における女性研究者のエンパワーメント～国内外の研究環境の比較～」世田谷キャンパス 2 号館会場には、140 名余の聴講者が参集し、基調講演、ミニ講演と講演者によるパネルディスカッションに聞き入りしました。基調講演者は、本学と提携関係にあるニュージーランド、カンタベリー大学副学長のゲイル・ギロン氏で「学術の世界における女性のリーダーシップについて」のテーマで話されました。他に海外からは、米国オレゴン大学教授のジェラルディン・リッチモンド氏、韓国科学技術女性連合会会長のミン・ビョンジュ氏が招聘されました。国内からは、最近話題のイクメン（育児に関心が高く、実践も伴っている男性の意味）代表として、文部科学省科

学技術政策研究所企画課長の牧慎一郎氏、学内から環境情報学部教授の小堀洋美氏が講演を行いました。パネルディスカッションのモデレータは、SOFERS の小川室長が務めました。このシンポジウムの運営は、カンタベリー大学との提携の窓口である人間科学部と、女性研究者支援の事業を行っている SOFERS とのコラボレーションで行われ、学内外はじめメディアの取材もあり、盛況のうちに幕を閉じました。

工学部に女性教員 1 名が採用されました

工学部に女性教員 1 名が採用されました。工学部教授として採用されたのは、中川聡子さんです。この採用により工学系学科の女性教員比率は 11.4%となりました。



+ 工学部教授 中川聡子



+ 報告書



+ 周知用チラシ

おやまだいフェスティバルでの科学体験出張教室

本学関係者が毎日お世話になっている尾山台商店街。「おやまだいフェスティバル」において商店街から本学に協力依頼があり、社会貢献として、地元の子どもたちに実験の楽しさを味わってもらおうと出展しました。SOFERS もそのひとつとして参加。岡田准教授が「ひかり」のバリエーション「万華鏡をつくろう」コーナーで、子どもたちを惹き付けていました。

男女共同参画委員会開催

本事業の 3 年間の中間期間を迎え、男女共同参画委員会を開催しました。委員会において、平成 22 年度上半期の活動報告と、下半期の活動計画について説明し、了承されました。また、23 年度以降の事業についても提案をさせていただきました。

第 4 回女性研究者セミナー

横浜キャンパスにて、第 4 回女性研究者セミナーを開催しました。講演者およびテーマは、環境情報学部情報メディア学科の清水由美子教授による「それが何の役にたつ？ー工学博士との関わりの中で変わっていった興味」、環境情報学部環境情報学科の室田昌子准教授「サステナブル・コミュニティ、総合研究所機器分析室 新藤恵美技士「機器分析について」でした。それぞれが、個性豊かな研究紹介をしてくださり、聴講者が興味をそそられた内容でした。



SOFERS Letter No.3 を発行

SOFERS Letter No.3 を発行し、全教職員、関係機関に配付しました。

キャリア支援講座

「男女共同参画・都市大スタイル」を講演

■ 知識工学部からの依頼により、知識工学部のキャリア支援講座（180名受講）において、小川室長が「男女共同参画・都市大スタイル」の講演を行いました。●なぜ男女共同参画が必要か ●そもそもジェンダーとは？あなたの中にあるジェンダー意識 ●男の目線・女の目線 ●世界における男女共同参画の現状などについて

講義しました。また、新たに導入した双方向コミュニケーションツール、クリッカーを使用し、その場で学生の考えを聞いたり、学生同士が、自分の考えと他の学生との考えの相違を認識しながら授業を進めました。本学の男女共同参画について状況説明の機会をいただけたのは大変貴重なことでした。



+ 講座の様子

テニス部との交流会

「リケジョはスポーツも高みを目指す」

本学の女子テニス部は、女子関東理工系大学リーグ（47大学12部）女子部のうち、2部に属しています。9年前の創部以来、一度も順位を下けたことがなく、22年度は、3部で優勝し、2部昇格を果たしました。今乗りに乗っ

ています。SOFERSでは、その情報を聞きつけ、テニス部員の皆さんを井戸端ランチに招待しました。勉強も大変な理工系にあっても、テニスも勉強も頑張るリケジョ魂！。エールを送り続けたい魅力的な女性たちでした。



+ 交流会の様子

東京都市大学附属塩尻高校にて 原子力講座開催

塩尻高校からの要請により、小川室長が原子力講座を高校2年の理系生徒約40名を対象に行いました。理系といっても原子力については、専門的な話を聴く機会がなかなかないので現状です。講座では、日本のエネルギー事情、原子力発電の仕組みや安全システムの説明など原子力に関するいろいろな話をしました。



+ 原子力講座の様子

東京都市大学附属塩尻高校にて 「光はエネルギー、音はエネルギー」開催

塩尻高校のオープンキャンパスに、受験を考えている中学生が数多く来場しました。その機会に岡田准教授と学生たちが、出前授業として、音と光のエネルギーについて実験教室を開きました。こうした試みによって、塩尻高校に理系を目指す生徒が沢山入学してくれることを期待しています。



+ イベントの様子

大庭中学校にて 科学実験教室

大庭中学校は、サイエンスパートナーシッププロジェクト校（SPP）として、科学授業を推進しようとしています。そちらからの要請により岡田准教授が「実験で学ぶ大気圧・真空・真空放電」をテーマに科学実験教室の協力をしました。



+ 科学実験教室の様子

室蘭工業大学にて 「工学系イノベーションの男女共同参画モデル 現状と課題・東京都市大学からの報告」

9月に行われた室蘭工業大学との打合せに従い、教職員対象に東京都市大の現状について小川室長から説明しました。

+ 放射線教室の様子

世田谷区教育委員会科学体験教室 「放射線教室」に協力

放射線が通った軌跡を実際に目で見る事ができる霧箱が人気でした。



第3回 女性研究者支援室会議開催

前回7月の会議からの活動報告を中心に意見交換を行いました。特に国際シンポジウムが成功裏に開催されたことや、室蘭工業大学への協力が順調に進んでいることが話題になりました。また、クリッカーを実演紹介し、各キャンパスで積極的に双方向授業を進めることを提案しました。

第5回女性研究者セミナー開催



+ 工学部建築学科 佐藤幸恵 講師



+ 人間科学部児童学科 紺野道子 講師



+ 都市生活学部都市生活学科 水野谷 倭子 講師

等々力キャンパスにおいて、第5回女性研究者セミナーが開催されました。講演テーマと講演者は、●工学部建築学科佐藤幸恵講師「建物の中身はどうなっているか」●人間科学部児童学科紺野道子講師「私の研究活動：発達臨床における実践と研究と」●都市生活学部都市生活学科水野谷倭子講師「印象を左右する色彩の力」。バラエティに富んだ講演で、多くの知見を得られたセミナーでした。

東急電鉄キッズプログラム 「モーターのしくみと うきうき発電」

東急電鉄からの依頼で、岡田准教授が、世田谷キャンパスにて、講義と実験を行いました。親子で10組の参加者が、協力しながら、モーターを作成し、紙風船を浮かせる実験に歓声が聞こえました。



+ 東急電鉄キッズプログラムの様子

茨城県坂東市長須小学校と七郷小学校にて、 「放射線教室」での講演

原子力文化振興財団の依頼により、岡田准教授が茨城県坂東市に出張。長須小学校、七郷小学校の児童各々1クラス約35名に放射線についてわかりやすい授業を行ないました。

室蘭工業大学にて学生向け授業 「工学系イノベーションの男女共同参画モデル 現状と課題」を講演

双方向コミュニケーションツール・クリッカーを使って、質問をしながら、科学技術分野の男女共同参画や女性研究者支援、ジェンダー問題について授業を進めました。

中村英夫学長が年頭挨拶で女性教員・女子学生の増加を望む

平成 23 年のスタートにあたり、中村英夫学長が、全教職員賀詞交歓会において年頭挨拶を行いました。その中で、今年改革すべきことが 3 つあると挙げ、一つは、研究に裏付けられた教育、次に国際交流を発展させること、そして三つ目として、本学では、女性の教員、学生の割合が圧倒的に少ないことから、現代において異常ともいえるこのような状態をなんとかして

解消すべきであると指摘しました。学長の方針のなかにも明確に示されたことから、23 年も女性研究者支援室として、環境整備や各プロジェクト活動に一層力を入れてゆきたいと改めて誓いました。



+ 中村英夫学長

WiN-Japan 女子大生交流会

昨年 7 月に引き続き WiN-Japan 主催の女子大生交流会が行われました。今回は、主に東京女子大学の文系の学生 23 名が集まりました。原子力分野に働く女性たちが全国から 13 名集まり、講義とテーブルを囲んでの意見交換会を行いました。文系の女性にとって、科学・技術はやや遠い存在であり、特にエネルギーや原子力については、普段関心を持つことも少ないのが正直なところです。でも WiN-Japan のように社会で働いている女性たちの話を聴く

ことは興味があり、就職活動の参考にもなるということで、講義もテーブルトークも熱心に視聴し、発言してくれました。文系の学生にとっても、科学や技術をベースにした職業を自分の人生の選択肢の一つに入れるのも良いのではないかと新たに気付いた参加者が多かったようです。



+ テーブルトークで研究者の仕事話を

+ ロールモデルとなる WiN-Japan 会員による自己紹介



+ エネルギー政策、放射線利用などをしっかり勉強

女性研究者支援室メンバーを紹介します。

平成 22 年 12 月から 23 年 1 月にかけて女性研究者支援室に新たなメンバーが加わりました。現在、1 号館 5 階 520 号室にて執務しているメンバーを紹介します。(コーディネータとして仕事をいただいた大石道子さんは、22 年 12 月末で退職しました。)



+SOFERS メンバー

左から塩田支援研究員、岡田プロジェクト担当責任者、小川室長、鈴木助手、川越支援研究員

工学部・知識工学部合同教授会でアンケート実施

工学部・知識工学部の合同教授会において、SOFERSの説明時間をいただき、男女共同参画についてのアンケートを行いました。



アンケートは、昨年全教職員向けに行った質問とほぼ同じ内容で、全教職員の結果と、工学系教職員の結果の相違をおよび経年変化を見る目的があります。アンケート方法は、先ごろ導入した双方向コミュニケーションツール、クリッカーを使用して行いました。またこの時間を利用して、女性研究者支援室の最近の活動報告と、クリッカーを授業に活用する提案を行いました。(アンケート結果は、本報告書 P.14、15 に掲載しました。)



国際会議 PIME にて講演。



+ ポスターセッションで意見交換する小川室長

■PIME (Public Information Materials Exchange) は、原子力をはじめとする科学技術の一般市民への広報活動に関する唯一の国際会議で、26 カ国 183 名が参加しました。この会議において、小川室長が、●女性研究者支援室の次世代教育事業である「科学とともだちプロジェクト」事例をポスターセッションで報告

●Communication with young people のセッションでは、本学学生 300 名に対して行ったエネルギー・原子力意識調査結果を発表しました。エネルギーや原子力に関する知識は、男女差よりも、理系・文系のコースの違いによる部分が多く、義務教育期間において、知識をきちんと教えることが重要であることを強調しました。同時に、東京都市大の紹介も行い、知名度を高めました。

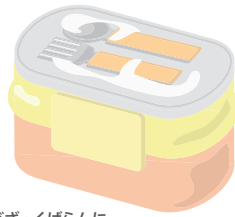


+ 世界のロールモデル・ネットワーク



SOFERS Letter No.4 を発行

SOFERS Letter No.4 を発行し、全教職員、関係機関に配付しました。



国際女性の日にちなみ 相談室にて茶話会を開催

ランチを持ち寄って、身の回りのいろいろな話題や、仕事での気付き、世界で話題になっている女性関連の話題などざっくばらんに話しました。

東日本大震災発生、原子力災害に対応して SOFERS 放射線相談室を開設

3月11日未曾有の大震災が東北、関東を襲いました。津波により東京電力株福島第一原子力発電所において、原子炉やウラン燃料が制御不能に陥り、放射性物質が環境に放出されました。一般市民は、放射線や放射能について大きな不安を持っています。本学には原子力安全工学科があり、質問対応も可能であることから、教職員や家族、学生の不安に答える「SOFERS 放射線相談室」を開設しました。直接、研究室に來ての質問や、メールでの問合せなど、10件程度の質問に対応しました。

卒業生へのエール メッセージに託して



学窓を巣立ち、社会へと旅立つ卒業式。SOFERS から卒業生へ、お祝いとエールの気持ちをこめたメッセージカードを配りました。東日本大震災の影響で、例年のように華々しい式典は行うことができませんでしたが、日本復興の担い手となる卒業生には、力強く荒波を超えて行っていただきたいと思います。

ホームページをリニューアル。 よりアトラクティブでインタラクティブに。

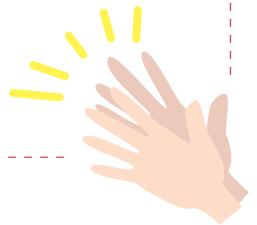
SOFERS ホームページは、運営上、工学部生体工学科に間借りしていましたが、このほど大学本体から入ることができるようになりました。ところで、検索エンジン・グーグルが、ホームページの質やリンク貼りの状況を総合的に判断して、URL の評価をしていることをご存知ですか。その評価によると、SOFERS の URL は、大学トップ頁とともに一般人気サイト評価のなかでは、3段階の最上階位にランクされています。新しい URL は、<http://www.sofers.tcu.ac.jp> です。

SOFERS Letter No.5 を発行

SOFERS Letter No.5 を発行し、全教職員、関係機関に配付しました。

東京都市大学への女子入学志願者数大幅増！

平成 23 年入学試験において、工学系の女子志願者数が、1,228 名となりました。22 年の 1,122 名と比較すると 106 名、9.4%と大幅アップとなりました。ちなみに、21 年は、1,079 名であり、SOFERS 発足以来、着実に工学系の女子志願者が増加していることがわかります。



男女共同参画に関する都市大意識調査結果 2009年度・2010年度比較

2009年度は、ネットアンケート形式で全教職員に対して行った。2010年度は工学部・知識工学部合同教授会の場を借りて、クリックカー（双方向コミュニケーションツール）を用いて行った。二度にわたるアンケート結果から、教職員全体と工学系教員の意識傾向の相違を見ることに狙いがあった。工学系の特徴として、夫と専業主婦の組合せが全教職員より多く、また全国平均より多いことで、役割分担家族を形成している率が高い、自分自身の仕事と仕事以外の人

のバランスについて、本学で働くことへの満足度は、工学系教員のほうが低い。また、女性研究者採用の数値目標については、工学系教員は、全教職員に比べてかなり拒否反応が強いという傾向がある。SOFERS事業の5つのプロジェクトについて、「どれも興味がない」人が、工学系教員で全教職員の3倍の割合がある結果については、大変残念であったが、さらに努力と工夫で、意識の浸透を図りたいと考えている。

2009年度 / 全教職員 229名
2010年度 / 工学系職員 82名

Q1. 性別をお答えください

2009年度

男性：74% (169名) / 女性：26% (60名)

2010年度

男性：91% (75名) / 女性：9% (7名)

Q2. 年代をお答えください

2009年度

60代：17% (38名)
50代：28% (66名)
40代：20% (46名)
30代：28% (64名)
20代：7% (15名)

2010年度

60代：23% (17名)
50代：31% (23名)
40代：28% (21名)
30代：18% (13名)
20代：0% (0名)

Q3. 配偶者についてお聞きます

2009年度

配偶者（就業）あり 35%
配偶者（非就業）あり 38%
配偶者 なし 27%

2010年度

配偶者（就業）あり 37%
配偶者（非就業）あり 50%
配偶者 なし 13%

2010年度は、年齢層が高いこと、それに伴い収入も多いと考えられることから、仕事をしていない配偶者が多い。2009年度、2010年度の配偶者なしの差がそのまま無職配偶者に置換された。全教職員、工学系教員とも有職配偶者の割合は同じであることは興味深い。ちなみに全国的な共働きの割合は、2009年度で56%で本学は、工学系教員の有職配偶者率が42%なので14ポイント低くなっている。ここから考えられるのは工学系教職員の間では従来型の役割分担意識は高いと推測される。

Q4. お子さんの有無

2009年度

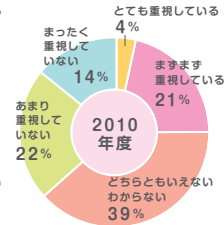
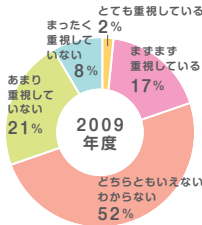
いる 68%
いない 32%

2010年度

いる 68%
いない 32%

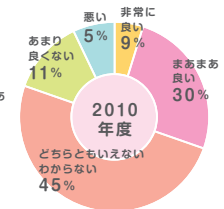
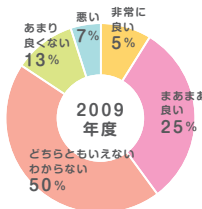
全教職員、工学系教員の子どもがいる割合は、同じ数値であった。

Q5. 本大学は男女共同参画／ワークライフバランスを重視していると思いますか？



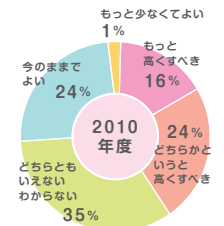
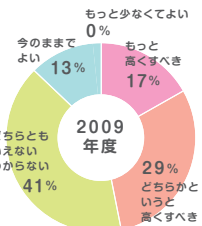
全教職員、工学系教員では「とても重要視している」「まあまあ重要視している」というポジティブな回答がそれぞれ19%、25%であり、若干工学系教員で上回っている。また「どちらともいえない」割合が52%、39%であり、工学系教員が自分なりの見方を持っている人が多いことがわかる。ネガティブな割合が29%、36%となっていることは、工学系教員のなかでポジティブに考える人もネガティブに考える人もそこそこ多いことを示している。ワークライフバランスを求めているSOFERSの活動は周知されているが、意義が正しく周知されていないという課題を示唆している。

Q6. 男女均等な待遇と公正な人事評価の徹底の度合いについて



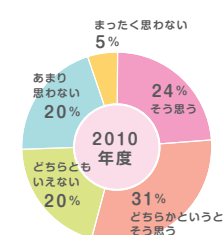
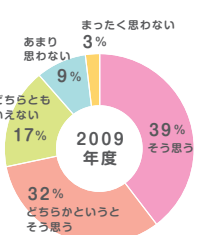
全教職員、工学系教員の「あまり良くない」「悪い」の回答が、20%と16%と差があるのは、全教職員のほうが女性が多く「公正ではない」と感じる割合が多いのではない。また工学系教員では男性が多く人事評価する側の立場が多いので「自分は公平に評価している」との思いが反映されていると思われる。「どちらとも言えない（わからない）」は全教職員、工学系教員ともに一番回答者が多かった。

Q7. 大学における現在の女性教員比率について



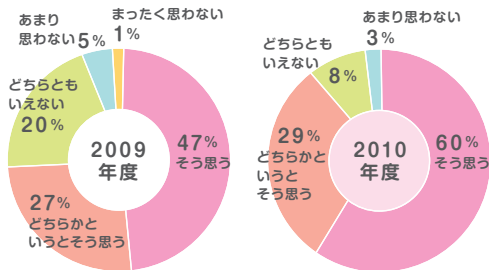
全教職員、工学系教員とも「もっと高くすべき」「どちらかという高くすべき」の割合はほぼ同じであった。どちらともいえない（わからない）を除く女性比率を高めるほうがよいと考えているのは46%、40%である。男性社会を形成している工学系教員の方が消極的であり、こうした点でも、より保守的な考え方に支配されていることがわかる。「もっと少なくてもよい」はほとんど無かった。

Q8. この大学でできるだけ長く働きたいと思っている



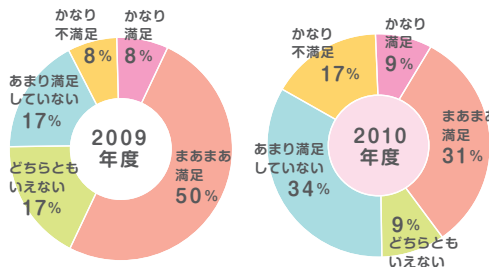
本学での継続的就業を望む割合は、全教職員、工学系教員とも半数を超えており、概ね満足していると思われる。

Q9. 女性も男性と同じように職場で能力を発揮できと思う



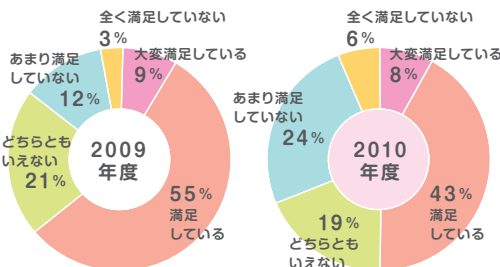
女性就業能力については全教職員で 74%、工学系教職員で 89% が女性の能力を評価している。Q5 の公正な人事評価に対する回答や、Q6 の女性教員比率についての回答が、この質問での意識とギャップがあるように思える。つまり能力は認めているものの人事評価は「男女差があるかどうかかわからない」であり、女性割合については「どちらとも言えない」や「今のままでよい」が多くの人の中からネガティブな考えになっている。意識としての能力評価と実際に行われる人事評価との間にギャップがあることがわかる。

Q10. 現在の「仕事」と「仕事以外の生活」のバランスに関する満足度について



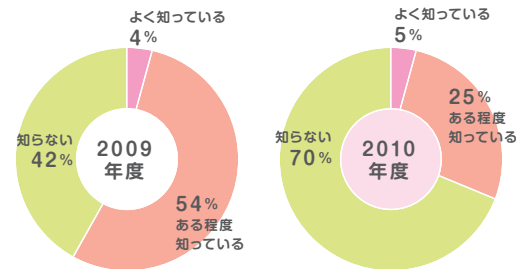
全教職員、工学系教職員の回答に大きなギャップがある質問であった。全教職員では 58% が満足としているのに対し、工学系教職員は 40% しか満足していない。どちらとも言えないは、全教職員では 17%、工学系教職員では 9% であった。ワークライフバランスについては、工学系教職員では満足派と不満足派が分かれている結果になった。

Q11. 総合的に見て現在、この大学で働くことに対する満足度について



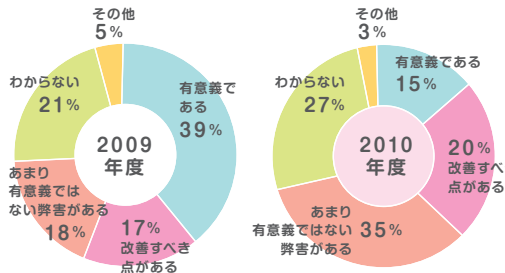
本学で働くことの満足度は、全教職員では 64% と高率であり、工学系教職員で 51% となっている。女性研究者の就業環境が整っているかどうかの問題は別として現在いる教職員の過半数は、職場として満足していることがわかる。

Q12. 男女共同参画基本計画及び第三期科学技術基本計画において女性研究者の採用の数値目標が定められたことについて



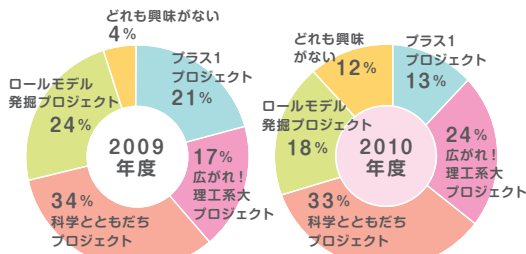
国における女性研究者採用数値目標は、全教職員対象では 58% が認知しているのに対し、より関心を持ってもらいたい工学系教職員では 30% しか認知していない。

Q13. この女性研究者の採用の数値目標についてどう思われますか？



また数値目標設定を有意義と回答した人は、全教職員で 39%、工学系教職員では 15% と非常に悲観的な数値であった。男性中心の価値観で長い間すべてが運営されてきた社会においては、いくら国家的プロジェクトといえども私学の文化を変えるのは並大抵ではないと思われる。数値目標は既得権を脅かし、能力に関係なく女性が男性を押し上げるという印象があるため抵抗感があるのであろう。数値目標がすぐに「逆差別」という反感に結びついてしまう傾向もある。数値目標を理解してもらうには、それが導入されることによって個々人の受けるメリットにどれだけ結びついているかを示すことが必要であると思われる。

Q14. 現在、本学では文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業が進行中です。興味のあるプロジェクトを3つ以内でお選びください



「科学とともだちプロジェクト」が一番支持が多く、「広がれ理工大プロジェクト」がそれに続いている。工学系教職員の中で、「どれも興味がない」と回答した人が全教職員の3倍の割合に達していることは、残念であった。

2011 Plan.

平成23年度計画

事業3年目に向け発進 将来への布石の年に!!

平成23年度も5つのプロジェクトをベースに より進化し、さらなる発展を目指します。

プラス1Pj

女性研究者がいない工学系学科に対して、専任講師、非常勤講師や教育講師制度等を活用した女性研究者採用促進に努める。

広がれ!理工系大Pj

理工系大学の女性研究者のネットワークを広げていくと共に、昨年開催したシンポジウムの成果を活かし海外で活躍している理工系女性研究者の情報を収集する。また、さらに国内外の理工系大学のネットワークづくりを進める。

科学とともにだちPj

前年度までの経験を活かし、理工系への興味を促す実験プログラムを開発する。さらに、大学の付属校等を対象に科学体験教室などを開催し、女子生徒の理工系学部への進学を促す。また、開発した実験プログラムをブレイクダウンし、初等教育課程から物理を中心とした科学体験教室を実施して、理工系への興味を促す。

ロールモデルの発掘Pj

最終年度にあたる今年度は、本学女子卒業生を中心としたロールモデルの発掘を中心とした活動を行う。卒業生を中心としたロールモデル集の第二弾を作成する。また、国外のロールモデルを発掘するために、HPや国際シンポジウムなどを活用し、女性研究者の国際的なネットワークをとりまとめていく。

基本的な環境整備

- 1) 女性研究者への相談体制の活発化
- 2) 研究と出産・育児等を両立できる環境の整備
- 3) 学内意識改革と啓発活動
- 4) 女子学生の相談体制の活発化

SOFERS キャラクター 「とふぁーず」

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY



東京都市大学 女性研究者支援室

〒158-8557 東京都世田谷区玉堤 1-28-1

TEL 03-5707-0104 (内線 2298)

FAX 03-5707-1289

<http://www.sofers.tcu.ac.jp>

Email:sofers@tcu.ac.jp



ノテンキだけど
初めから理系志望の
真希ちゃん



正義感に燃え燃えの
律子ちゃん



数学・物理は得意だけど
気の弱い
加代ちゃん